注　意　報

７ 病 第 ２ １ 号
令和７年８月２１日

関係各位

京都府病害虫防除所長
（公　印　省　略）

病害虫発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇

病害虫発生予察注意報第２号

作 物 名　　**黒大豆・小豆**
病害虫名　　**吸実性カメムシ類**

１　**発生地域**　　**府内全域**
２　**加害時期**　　**開花期から収穫期まで**
３　**発 生 量**　　**平年比多い**
４　**防除時期**　　**着莢期から子実肥大期**
５　**注意報発令の根拠**

（１） ８月中旬に行った黒大豆の巡回調査では、寄生株率は3.0%（平年1.4%）、25株当の虫数は1.4頭（平年0.5頭）と平年比多い。

（２） アオクサカメムシの予察灯（６０W）（７月第３半旬～８月第２半旬の合計）は、京田辺市、亀岡市及び京丹後市で誘殺を認めなかった（平年並）。

（３） イチモンジカメムシの予察灯（６０W）への誘殺数（同上）は、京田辺市で１頭（平年:0.8頭）と平年並、亀岡市で13頭（平年:2.7頭）、京丹後市18頭（平年:2.0頭）と平年比多い。

（４） イチモンジカメムシの予察灯（ＢＬ）（同上）は、京田辺市で誘殺を認めず（平年:2.8頭）（平年比やや少ない）、亀岡市で２頭（平年:3.6頭）と平年並。

（５） イチモンジカメムシのフェロモントラップへの誘殺数（同上）は、亀岡市で38.0頭（例年:12.1頭）と例年比多い。

（６） ホソヘリカメムシのフェロモントラップへの誘殺数（同上）は、京田辺市で60頭（例年:39.6頭）、亀岡市で59.4頭（平年:28.4頭）と平年比やや多く、京丹後市で28.4頭（例年:51.2頭）と例年並。

（７） ミナミアオカメムシの予察灯（６０W）への誘殺数（同上）は、京田辺市で８頭（平年:6.2頭）と平年比やや多く、亀岡市で17頭（平年:2.0頭）と平年比多く、京丹後市で誘殺を認めていない（平年並）（平年:0.0頭）。

（８） ミナミアオカメムシの予察灯（ＢＬ）への誘殺数（同上）は、京田辺市で２頭（平年:8.9頭）と平年並、亀岡市で16頭（平年:1.6頭）と平年比多い。

（９） ８月14日発表の大阪管区気象台発表の１か月予報では、向こう１か月の気温は平年比高いと予想され、今後も吸実性カメムシ類の増殖や活動に好適な気象条件が続くと予想される 。

写真１　アオクサカメムシ成虫
（触角第３、４、５節が黒色）
体長 12～16㎜

写真２　ミナミアオカメムシ成虫
（触角第３、４、５節が褐色）
体長 12～16㎜

アオクサカメムシとミナミアオカメムシは似ているが、触角の色で識別できる。

写真３　ミナミアオカメムシ

アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシとも白色の帯状がみられる個体もいる。

写真４　イチモンジカメムシ成虫
体長 9～11㎜

写真５　ホソヘリカメムシ成虫
体長 14～17㎜

防除上の留意事項

（1）クズやレンゲ等の雑草が自生する場所は好適な発生地となりやすく、このような場所が周辺にあるほ場は、カメムシ類の被害を受けやすい。
（2）開花期直前から着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続ける。
（3）黒大豆における吸実性カメムシ類の防除適期は着莢期から子実肥大中期である。着莢期から約１０日間隔で２～３回薬剤防除を実施する。
（4）アズキにおける吸実性カメムシ類の防除は開花期直前から約１０日間隔で２～４回実施する。
（5）薬剤散布の際は、薬剤が莢によくかかるよう丁寧に散布する。

農薬の使用に当たっては、ラベルおよび最新の使用方法や注意事項を確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。